

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月3日
函館市立日吉が丘小学校

1 本年度の重点教育目標

自分の成長を実感する子 ～笑顔で学ぶ日吉っ子～

「笑顔で学ぶ日吉っ子」《3づくり》

(1) 個性や特性を生かした支持的風土に溢れた学級をつくる。(学級づくり)

(2) 一人一人に応じた多様で質の高い学びを引き出す授業をつくる。(授業づくり)

(3) P T A, 町会, 学校運営協議会との連携等により地域の教育の核となる学校をつくる。(学校づくり)

2 本年度の取組の重点

(1) 学級経営の充実 (2) 学習指導の充実・授業改善 (3) 特別支援教育の推進

(4) 学校の安全確保と教育環境の整備 (5) 校内外の連携と協働 (6) 教育公務員としての自覚と誇り

(7) 働き方改革の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
(1) 学級経営の充実	①児童理解の充実 ②問題行動の早期発見・早期対応 ③いじめや不登校への対応 ④学年団, 担任以外の教職員のサポート	b	教職員は学年の先生方だけではなく、養護教諭、専科教員、通級指導教室教員、管理職、スクールカウンセラー等と、日々連携し、多面的な児童理解に努めていた。情報交流が日常的になされていたことで、問題行動の早期発見・対応につなげることができた。いじめや不登校に対してはチームで対応し、状況に応じて、教育委員会やスクールソーシャルワーカーとも連携し、改善を図ることができた。	A	A
(2) 学習指導の充実・授業改善	①基礎的・基本的な内容の定着 ②学習規律や生活規律の徹底 ③ I C T 機器の効果的な活用 ④家庭学習の定着 ⑤指導方法・指導形態の工夫 ⑥学校図書館の効果的な活用 ⑦教育課程の評価・改善	b	専科教員による専門的な指導や、算数 T T 加配による個別指導の充実により、児童の学力向上、意欲向上に一定の成果が見られた。また、学びの姿を焦点化して示したり、全校集会等で校内外のきまりを児童全員で確認したりと、学校として統一した指導を心掛け、児童に繰り返し働きかけてきた。学習規律や生活規律は、少しずつ児童に浸透してきた。 クロムブックの持ち帰りの機会が増え、I C T 活用の幅も広がった。家庭学習に I C T を取り入れることが多くなったが、学年×10分の学習時間に至っていないことが多かった。学校図書館は、本の配置や、閲覧スペースの工夫、適切な新刊図書の購入等により、来館者数を増やしている。	A	A
(3) 特別支援教育の推進	①ケース会議の充実 ②校内支援体制の充実 ③日吉っ子交流会の効果的な活用 ④支援級・通級の指導の充実と通常級との連携 ④各種関係機関との連携	b	定期的に日吉っ子交流会を行い、特別な配慮が必要な児童の情報交流をしている。さらに、ケース会議で対応の仕方について協議し、児童の困り感が軽減するように努めている。状況に応じて、教育委員会・児相・発達障がい者支援センター等、他機関とも積極的に連携している。対応しなければならない児童が多く、ケース会議にかける時間を確保することや、対応するための人材が足りないことが課題である。	A	A
(4) 学校の安全確保と教育環境の整備	①安全指導の徹底と防災防犯意識の向上 ②感染症等予防対策の習慣化 ③職員の危機管理意識の向上 ④学校内外の教育環境の充実	b	校内外のきまりを整備し、繰り返し働きかけてきた。廊下歩行にはまだ課題が残るが、少しずつ落ち着いた学校生活に結び付いてきた。熱中症マニュアルも2年目となり、児童・保護者に浸透してきた。児童の S N S 利用が増えている状況から、今後も防犯教室や各種チラシ等を利用して、適切な関わり方を伝えていきたい。通学路合同点検により、学校付近通学路に歩行者用の白線が引かれ、安全性が高まった。	A	A
(5) 校内外の連携と協働	①学級間, 学年, ブロックの協力・連携 ②校内組織間の協力・連携 ③家庭との連絡と情報交換 ④積極的な情報発信 ⑤学校運営協議会の充実 ⑥保護者アンケート等を生かした学校改善 ⑦中学校区3校の連携の強化 ⑧コミュニティ・スクールの効果的運営	b	教職員の協力・連携体制が強化され、より迅速に、より多面的に、様々な学校課題に対応することができた。困り感を共有し、自然に助け合う風土ができています。各種通信や安心メール等で、家庭・地域への情報発信に努めているが、保護者アンケートの結果を見ると、未だ十分とは言えない。より広く声を受け止め、共に歩んでいける工夫があると良い。保護者アンケートでは、忌憚のないご意見を多くいただき、今後の学校運営に生かしていくことができた。中学校区3校の連携については、昨	A	B

地域住民と P T A, 学校がさらに連携していくために、様々な切り口から距離感を縮めていけると良い。家庭との連携においては、早め早めの情報発信を心掛けていく。

			年度の実績を生かし、より効果的な関わりができた。			
(6) 教育公務員としての自覚と誇り	①責任の自覚と自己研鑽 ②教職員相互の情報交流と報連相確の徹底 ③リスペクトを共通認識とする教職員集団 ④教職員事故防止の徹底	a	教職員は計画的に研修に参加し、研鑽に励んでいる。教職員間の関係は良好で、管理職も交えて積極的に情報交流することができている。職員会議等では、建設的な意見交流がなされ、学校改善に向けた取組を随時行うことができている。実際に起こった事例を共有するなど、教職員事故防止に向けた研修も適宜行っている。	A	A	
(7) 働き方改革の推進	①業務の効率化、時間外勤務時間の縮減 ②行事や校内組織の精査、改善 ③メンタルヘルスの推進	b	校務のICT化、行事・校内組織の精査・改善を積極的に行っており、働き方改革は進んでいる。しかし、未だ個々の仕事量を減らすことができず、時間外勤務時間の縮減は十分ではない。個々の意識変革を図りながら、学校全体で改善できると良い。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。